

言語研究法 ('19)

第1回 イン트로ダクション 1-1

1

言語研究法 ('19) 第1回 イン트로ダクション

言語学とは？

目的・始まり・考え方

2

授業の進め方

- 指定教材（図書）
佐久間淳一・加藤重広・町田健
「言語学入門
これから始める人のための入門書」
研究社
(2004年, ISBN 4-327-40138-2)



3

各回の構成

講義映像（10数分程度）
↓
練習問題（数問）
↓
講義映像
↓
練習問題
↓
練習問題
↓
小テスト（最終回のみレポート提出）

4

言語学の問い

- Q. 世界のすべての言語に共通する特徴は？
- Q. 人間の言語にあって、動物のコミュニケーションにない特徴は？
- Q. 言語の仕組みはどう説明できる？
- Q. 赤ちゃんはどうやって言語を身につける？
etc.etc.

言語研究法 ('19)

第1回 イン트로ダクション 1-1

5

<第1講> 1. 「記号」って？

●言語と言語以外のコミュニケーション手段を比べてみると？

- a. 指差し (インデックス) 
- b. アイコン 
- c. 言葉 (言語記号) いぬ

6

「恣意性 (しいせい)」

- a. インデックス (指標) はたどって行くことができる
← [連続性]
- b. アイコン (類像) は似ていることで理解できる
← [類似性]
- c. 言葉は約束事を覚えないと理解できない！

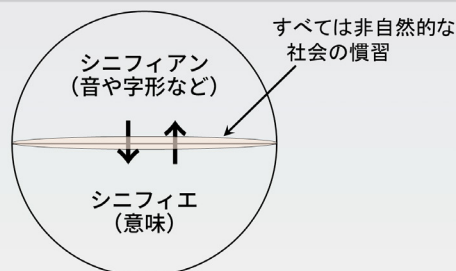
↓
表すもの (単語など) と表されるもの (意味) を結びつける
必然性がない = 言語の普遍的性質 「言語記号の恣意性」

cf. インデックスやアイコンでは、
表すものと表されるものをつなぐ性質がある = 「有契性」

7

恣意性を図にすると…

・言語記号



8

ちょっと待った…

- Q. じゃあ、オノマトペ (擬音・擬態語) は？
じゃあ、絵文字 (象形文字) は？
- A. オノマトペや絵文字は「動機づけ」がある点で「有契性」を
帯びてはいるが、社会の約束事としての側面も大きい点では
やはり「恣意的」

<例> ・「ワンワン」と 'bowwow' では結構な違いが

- ・日本語を知らなければ「キラキラ」と「ギラギラ」はわからない
- ・「ニヤニヤ」でも「ニマニマ」でもない方言の形
「ニワニワ」のような変異の存在
- ・「山」や「木」も起源を知らなければただの図形

言語研究法 ('19)

第1回 イン트로ダクション 1-1

9

2. 「体系」と「構造」の仕組み

要素がグループになっていて、
互いに関係合っているのが「体系」

- <例>・日本語にある5つの母音
・英語のbe動詞の変化形

要素を決まった仕方をつなぎ合わせて、
より大きな単位を作り上げるのが「構造」

- <例>・'dog' と 'god' が別の単語であること
・「市名古屋」とは言わないこと



言語は**体系**と**構造**を備えた（複雑な）仕組み

5

10

ちょっと練習を 【問題2】

Q. 次の例は、「体系」と「構造」のどちらかに関係するものです。どちらであるかを指摘しなさい。

- 「開ける」と「閉める」はお互いに反対方向の動作を表す。
- 「古いイヌ」という言い方は日本語では適当とは言えない。
- 日本語の「車」と英語の car の意味は全く同じではない。
- 「行くようだった」と「行ったようだ」という2つの表現が表す意味は異なる。

10

15

20

25

30

35

言語研究法 ('19)

第1回 イン트로ダクション 1-2

11

近代言語学の父 ソシュール

フェルディナン・ド・ソシュール
(1857~1913)
スイス生まれの言語学者



12

<第2講> 1. 言語学の対象

●思考実験を…

「りんご」という言葉を10人に言ってもらったら
少しずつ全部違っているはず

↓
にもかかわらず、人（母語話者）はそれらすべてを
「りんご」として理解する

↓
ということは、人の頭の中には抽象的な「り」と「ん」と「ご」
があり、それらが連なった抽象的な語としての「りんご」が
あると言わなければならないのか？

—— ソシュールの考えたこと

13

ラングとパロール

Q. ソシュールが「近代言語学の父」って？

- ・社会の個人が個々の場面で発する（用いる）
言葉ないしその音声・語形・文（・字形）

→ 「パロール」（「言」）

- ・ある言語が備えているものとして抽象された
音声・語彙・文法（・文字）全体

→ 「ラング」（「言語」）

- ・それらを合わせた人間の営む言語活動の総体

→ 「ランガーージュ」（「言語活動」）

A. ランガーージュを解明するにはまずラングを解明する必要があり、
それゆえ言語学の対象はラングである

14

少し補足を…

おおまかに言って、

- ・パロールとして見ると、個人の属性、場面や話題などによる
差異が見えてくる

→ 社会内での言葉の変異を扱う「社会言語学」
(cf. 授業科目「新しい言語学 ('18)」)

- ・ラングとして見ると、ある体系内での不変性や同一性が見えてくる

→ たとえば「日本語文法」や「日本語音声学」、
「日英語対照意味論」のような捉え方

言語研究法 ('19)

第1回 イン트로ダクション 1-2

15

2. 共時態と通時態

Q. 「現在の日本語の文法」はどうやって記述？

A. 言語は時間とともにつねに変化しており、かつそれは、言語の体系と構造の変化であるから、「現在の」文法を書くには、虚構的に時間の流れを止めたときに見えると考えられる体系と構造を捉えることに



時間軸に沿って変化する言語の側面が「通時態」
 時間の流れを一点で固定したときの言語の断面が「共時態」

16

ちょっと練習を…

Q. 次の例は「共時態」と「通時態」のどちらに当てはまるか述べて下さい。

- 「ジ/チ/ズ/ヅ」のいわゆる四つ仮名が、次第に発音の区別を失っていった。
- 「痛い」と「痛っ」を場面によって使い分ける地方がある。
- ラ抜き言葉によって、「ラレル」の表す〈可能〉の意味が他の意味から独立しつつある。
- 敬語の種類を「尊敬語/謙譲語/丁寧語/丁寧語/美化語」の5つに分類する。

言語研究法 ('19)

第1回 イン트로ダクション 1-3

17

<第3講> 言語の種類

<第3講>は、第14回で取り上げます。

18

<第4講> 1. 言語の単位

- **音声**：言語（話し言葉）の媒体として実質を担う音のこと
 <例> 母音の[a][o]や子音の[p][m]
- **音素**：2つの語を異なるものとして区別できる最小の単位で、
 生(なま)の音声ではなく、機能に着目して抽象的に
 設定される単位
 <例> 日本語ハ行子音に対する/h/ (/hana/ 対 /tana/)
 「ん」に対する/N/ (はんば 対 はっぱ)
- **文字**：言語（書き言葉）の媒体として実質を担う単位で、
 紙などに書かれる線からなる
 (文字の構成要素を「字母」「書記素」と呼ぶ)
 <例> アルファベット、漢字、ひらがな

19

言語の単位 (続)

- **形態素**：意味を有する最小の単位で、それ以上分解したら
 ただの音になってしまうところまで分割された
 まとまりのこと
 <例> 日本語の「てき(的)」(「○○的」のように単語の要素
 として用いられ、それ自体意味をもつ)
 英語の 'un' ('unfair' 'uncertain' 'unable' のように
 「不/非/無」の意味で単語の要素となる)
- **(単)語**：形態素のうち、意味や働きが単独で決まるもの
 (単語は1つ以上の形態素からなる)
 <例> 「はな(花)」「を」「みる(見る)」「
 「はなみ(花見)」「か(蚊)」「が(蛾)」

20

言語の単位 (続々)

- **文**：単語や形態素をある一定の仕方で接続してつくられた、
 意味のまとまりをもった単位
 <例> 「お腹が空いたよ。」
 「毎日ビールばかり飲んでたらダメだよ。」
 "My doctor told me to stop drinking beer."
 "That's too bad!"
 (「地震!」のようないわゆる一語文を「文」と認めるか
 どうかについては様々な立場がある)
- **文章(談話)**：文を連ねてつくられた、
 意味の(より大きな)まとまりをもった単位
 <例> …省略…

言語研究法 ('19)

第1回 イン트로ダクション 1-3

21

2. 言語学の分野

●言語の単位に応じて発達した分野

- 音声の種類、メカニズム、性質などを扱う
→「**音声学**」
- 音素や音調など、ある言語での音声の用いられ方を扱う
→「**音韻論**」
- 文字の種類や仕組み、歴史などを扱う
→「**文字論**」

5

22

言語学の分野（続）

- 形態素の抽出や分類、形態素を組み合わせて語をつくる語形成などを扱う
→「**形態論**」
- (単)語の意味を扱う
→「**意味論**」（文の意味も扱う）
- 文をつくるときの規則や文の構造を扱う
→「**統語論**」（「構文論」「文法論」）
- 文章の展開や構造を扱う
→「**談話分析**」（「文章論」）

10

15

23

言語学の分野（続々）

- 時空間、社会や心理との関わりで発達した分野
- 言語の通時的な変化や言語の系統関係を扱う
→「**歴史言語学**」「**比較言語学**」
（系統関係のない言語同士の比較は「対照言語学」）
- 地理的な広がりの中での言語の変異を扱う
→「**言語地理学**」「**方言学**」
- 言語使用者の社会的属性による変異を扱う
→「**社会言語学**」（cf.「新しい言語学（'18）」）
- 言語使用における意図の解釈や推論を扱う
→「**語用論**」（cf.「新しい言語学（'18）」）

20

25

24

ではちょっと問題を… 【問題】

Q. 以下にあげる内容は、言語学のどの分野に属するか指摘しなさい。

- a. 「私の母がいっちゃいました」は、間違った敬語の使い方をしている。
- b. 平安時代には「思ふ」だったものが現代日本語では「思う」と言う。
- c. 日本語では、名詞の直後に格助詞が来る。
- d. 警察では「犯人」のことを「ほし」と呼ぶ。
- e. 「高跳び」は「高い」という形容詞と「跳ぶ」という動詞を組み合わせでつくられた単語である。
- f. 「のぼる」と「あがる」が表す意味は似ているけれども全く同じではない。

30

35